

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平坂中学校	階数	地下 階地上3階
建設地	愛知県西尾市平坂町吉山1、他58筆	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	480 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,200 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年2月 予定	評価の実施日	2023年4月14日
敷地面積	31,150 m ²	作成者	後藤
建築面積	1,507 m ²	確認日	2023年4月14日
延床面積	3,342 m ²	確認者	齋藤



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

★ ★ ★ ★ ★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	77%
③上記+②以外の	77%
④上記+	77%

46 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>11.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	11.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	11.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
平坂中学校

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									3.0	
Q1 室内環境									3.4	
1 音環境									2.6	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									0.4	
1 開口部遮音性能									3.0	
2 界壁遮音性能									3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									1.0	
2 温熱環境									3.0	
2.1 室温制御									0.5	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境									3.8	
3.1 昼光利用									0.2	
1 昼光率									0.3	
2 方位別開口									3.0	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									0.3	
1 昼光制御									4.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
4 空気質環境									4.2	
4.1 発生源対策									0.2	
1 化学汚染物質									0.5	
4.2 換気									0.3	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									0.2	
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
Q2 サービス性能									3.4	
1 機能性									3.6	
1.1 機能性・使いやすさ									0.4	
1 広さ・収納性									0.4	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									0.3	
1 広さ感・景観 (天井高)									0.3	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									0.3	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									4.0	
2 耐用性・信頼性									2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.3	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									0.4	
2 免震・制震・制振性能									2.2	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.3	
1 躯体材料の耐用年数									3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									2.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									2.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔									5.0	
2.4 信頼性									0.1	
1 空調・換気設備									3.6	
2 給排水・衛生設備									3.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	

3 対応性・更新性			0.2	3.9	0.29	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m 壁長さ比率:0.29	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		スラブ荷重2900N/m2	3.0	4.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	② 更新時に使用可能な広い廊下・建具開口	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	5.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.6
LR1 エネルギー					0.40				4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.77	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.45	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.1
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.1	0.63	-	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率77%	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	2.8	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.60	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	2.0	0.20	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.20	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10
② 資源の有効活用			3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:11.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 平坂中学校

計画上の配慮事項	
総合	給食室・教室・理科室等を新設し、今後の生徒増加に備える。 省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能をめざし、施工性や維持管理を意識し、快適な室内環境の整備を行う計画とする。
Q1 室内環境	遮音性の確保、採光による昼光率の向上を実現した。
Q2 サービス性能	学校の特性上、生徒が清掃しやすい防汚性の高い建材を使用している。 配管仕様を高品質とし、継続的なメンテナンスのしやすさを考慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	現況の植樹や緑地の減らさないように努めた。
LR1 エネルギー	外皮の熱負荷を抑制する建築仕様を徹底した。また一次エネルギー消費量を抑える設備選定に努めた。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない建築材料、再生可能な部材、リサイクル材を採用した。
LR3 敷地外環境	職員用駐車スペースの確保を行った。 給食室へは校門とは別の搬入路を設け、廃棄物の保管や排出もこの搬入路より行えるよう配慮した。
その他	